

平成26年度
和歌山・海プロジェクト
報告書（記録集）

Supported by

日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

公益社団法人
和歌山県体育協会

平成26年度「和歌山・海プロジェクト」
セーリング体験等研修会実施要項
【日本財団助成事業】



1 趣 旨

和歌山県は海洋県であり、海の記憶は多くの県民のふるさと体験の一部である。しかし、現状では「海は危険」という認識も根強く、義務教育でマリンスポーツに親しむ機会も限られている。そこで、ふるさとを改めて見直す観点から、教職員及び児童生徒が、海の安全に関する知識の習得やセーリング体験を通じて「海」に対する理解を深める。

2 主 催 和歌山県教育委員会 公益社団法人和歌山県体育協会

3 主 管 和歌山県セーリング連盟 特定非営利活動法人和歌山セーリングクラブ

4 期 日 プラン① 「出前教室でヨット体験」 平成26年7月～12月
プラン② 「ディンギーマリーナでヨット体験」 平成26年7月～11月
プラン③ 「教職員向け体験研修」 平成26年7月25日（金）

5 会 場 プラン① 各学校
プラン②③ 和歌山セーリングセンター 和歌山マリーナシティ内
和歌山市毛見1514 TEL. 073-448-0251

6 内 容 プラン① 各学校のプール等への出前授業（内容は下記日程を基本に調整）
プラン② 児童生徒と引率者がバスで移動し、施設と海でのセーリング体験
プラン③ セーリング体験をあまり有しない教職員の基礎的な知識等の習得

7 日 程（下記はモデル日程：各学校と主管団体との間で調整）

	9:00	10:30	12:00	13:00	16:00
プラン①	座学	プールでの体験	午後のみ日程など調整可能		
プラン②	座学 （安全講習・操 船理論など）	陸上・アクセス ディンギー※1 などでの体験	昼食	セーリング体験 （和歌浦湾で競技艇を使用した 実践的講習）	
プラン③	座学	陸上体験など	昼食	セーリング体験	

※1 初心者向きの艇（新艇）

※2 ①②は、午前・午後のみ日程も可能 主管団体と調整して下さい。

※3 荒天時はロープワーク講習などに変更する場合があります。

8 参加対象 プラン①②：小中学生（最大約40名）※学校・学年の一部でも可
プラン③：小中学校教職員並びに県市町村教育委員会職員

9 参加申込み

下記様式により県教育委員会健康体育課 川畑宛て、直接「FAX」又は「メール」で申し込んでください。

申込みは、7月18日(金)までとします。

F A X 番号	073-441-3697
メールアドレス	kawabata_t0012@pref.wakayama.lg.jp

10 経費・携行品等

- (1) プラン①②では、移動用バス等を含め研修に係る経費は負担します。
- (2) プラン③は、旅費の負担はありません。
- (3) プラン①②③すべて昼食費は負担しません。
- (4) プラン②では「海洋教育」関連の食育の企画について、主管団体から調整します。
- (5) 座学では筆記用具等を準備ください。
- (6) 服装は、体操着・運動靴等で参加願います。
- (7) ヨット乗船時は濡れますので着替えを用意してください。

11 事業採択等

- (1) 申込多数の場合は、主催団体から採択・不採択を通知します。

12 その他

- (1) 安全に受講できるよう指導者の指示に従ってください。
- (2) 荒天時及び警報等発表時の対応は、各校と主管団体との間で事前に取り決めます。

13 事業内容の詳細についての問合せ先

特定非営利活動法人和歌山セーリングクラブ
担当 中村 和哉 090-1890-9394

(様式)

平成26年度「和歌山・海プロジェクト」セーリング体験等研修会 参加申込書
※複数のプランを選択できます

プラン	学校名	担当者職氏名	受講希望者数※	備考
①				
②				

※学年別人数及び引率者数を記入下さい

プラン	学校名	受講希望者職氏名	セーリング経験	備考
③			無・有 ()	

平成26年度「和歌山・海プロジェクト」セーリング体験等研修会

1 趣 旨

和歌山県は海洋県であり、海の記憶は多くの県民のふるさと体験の一部である。しかし、現状では「海は危険」という認識も根強く、義務教育でマリンスポーツに親しむ機会も限られている。そこで、ふるさとを改めて見直す観点から、教職員及び児童生徒が、海の安全に関する知識の習得やセーリング体験を通じて「海」に対する理解を深める。

2 主 催 和歌山県教育委員会 公益社団法人和歌山県体育協会

3 主 管 和歌山県セーリング連盟 特定非営利活動法人和歌山セーリングクラブ

4 実施内容

(1) 教職員向け体験研修会

◇ 日 時 平成26年7月25日(金)

◇ 場 所 和歌山セーリングセンター 和歌山マリーナシティ内
和歌山市毛見1514 Tel 073-448-0251

◇ 参加者 小中学校教員及び事務局職員 9名参加

◇ 日 程 9時00分 テーブルレクチャー

「セーリングによる教育プログラムについて～セイルトレーニング～」

講師：一般社団法人グローバル人材育成推進機構 海事代理士 小原朋尚 氏

10時30分 ヨット体験Ⅰ：内海にてアクセスディンギーの試乗

12時00分 昼食

13時00分 ヨット体験Ⅱ：2グループに分かれて外海にて体験

① FJ級ヨット体験（インストラクター：星林高校ヨット部員）

② セーリングクルーザー体験（インストラクター：中村氏・宮川氏）

15時00分 片付け及びシェアリング

16時00分 クロージング

◇ 内 容

初めに、上記講師から帆船を使った教育プログラムについて説明を受けた。

次にヨット（アクセスディンギー）2艇を交代で操縦し、最後には、2人組で競争を楽しんだ。

午後は、2つのグループに分かれて以下のヨット体験を行った。

① コーチボート（ゴムボート）に乗り、県立星林高等学校ヨット部員（各2人）が操縦するFJ級ヨット4艇に交代で乗って、「シートの引き方」や「艇の中で身のこなし」を体験した。

② セーリングクルーザーに乗り、和歌浦湾でのクルージングを楽しみながら、風向を見ながら、帆の張り方を変える作業を役割を分けて、それぞれ体験した。

参加者から、楽しい貴重な体験教室になったと喜びの声が多々聞かれた。

(2) ヨット体験教室

	学校名	実施日	参加児童生徒	人数 (名)	引率者数 (名)	実施内容	備考
1	有田市立港小学校	9/1(月)	5・6年児童	42	5	別紙1参照	
2	高野町立富貴小中学校	10/1(水)	全小中学生	4	7	別紙2参照	
3	和歌山市立名草小学校	10/21(火)	6年児童	72	4	別紙3参照	ヨット 贈呈式
4	和歌山市立山口小学校	11/10(月)	5・6年児童	44	4	別紙4参照	






有田市立港小学校 実施内容

時間	内容	活動の様子
9:30	開校～オープニング 「ヨットってなあに？」	
10:00	体験①：アクセスディンギー（4艇） 4グループに分かれて a. インストラクターと一緒に乗ろう！ b. 友達と乗ってみよう！ c. 仲間と競争しよう！	 
11:30	(昼食)	 
12:15	体験②：OPPI（4艇） 2グループに分かれて a. ボートに乗って沖に出よう！ OPPI4隻を順番に体験します。 b. ロープワーク教室 楽しいロープの結び方を学びます。	   
13:00	a, bの交代	 
13:45	閉校（クロージング） 「ヨットは楽しかったかな？」 児童代表によるお礼の言葉	 
14:00	終了	

5・6年児童42名と引率教員5名が、午前は海上にてアクセスディンギーの体験を、午後は時折降る小雨の中、海上でOPPIの体験と室内でロープワークの体験を交代して行った。ジョイスティックを使って操縦するアクセスディンギーに子ども達は直ぐに慣れ、子ども達同士で楽しく操縦することができ、大変好評であった。OPPIについては、「速くて、すぐにひっくり返りそうで少し怖かった」と感想を持つ児童も見られた。児童優先での体験となり、引率教員の方々に操縦体験をしてもらえなかったことは、次回体験会に活かす必要があると感じた。（指導教員が体験することにより、本当の楽しさを体感し、本体験会の普及につながる。）








服装等については、セーリングセンター担当者から直接当該校に電話で連絡済みであったが、女性教員から着替え（靴も含め）が必要であることを知らなかった旨報告があったことから、事務局からメール文書をもって寒さ対応としての防寒着等も含め、しっかり連絡する必要があると感じた。





高野町立富貴小・中学校 実施内容

時間	内容	活動の様子
9:30	開校～オープニング 「ヨットってなあに？」	
10:00	体験①：アクセスディンギー（2艇）	
	a. インストラクターと一緒に乗ろう！	
	b. 友達と乗ってみよう！	
	c. 仲間と競争しよう！	
11:30	（昼食）	
12:15	体験②：アクセスディンギー（2艇）	
		
13:45	閉校（クロージング） 「ヨットは楽しかったかな？」 児童代表によるお礼の言葉	
14:00	終了	

小5児童2名と中1、中2生徒各1名及び引率教員7名が、午前海上にて適度な風が吹く中、アクセスディンギーの体験を行った。午後についても、適度な風が吹く中、海上にて、引率教員を含めたっぴりのアクセスディンギー体験を行った。運動が苦手な児童もいたが、アクセスディンギーは大変楽しかったようで、最終的に1人で何周も所定のコースを操縦し、生き生きした表情と自信に満ちあふれた表情が印象的であった。また、山間部に位置する当該校児童生徒であるため、海は遠い存在であったが、貴重な体験になったと指導者から多くの声が聞かれた。児童生徒が少数であったこともあり、今回は前回の反省を活かし、積極的に体験を勧めたところ、引率教員の全ての方に体験いただけたことも成果であった。

和歌山市立名草小学校 実施内容

時間	内容	活動の様子
9:00	開校～オープニングⅠ～ 「ヨットってなあに？」	
9:30	体験：アクセスディンギー（1組：8グループ） ※後半クラスについては、午前中を浜宮ビーチで過ご す。（前後半入れ替え） a. インストラクターと一緒に乗ろう！	
	b. 友達と乗ってみよう！ 	
	c. 仲間と競争しよう！ 	
11:30	(昼食)	




時間	内容	活動の様子
12:10	開校～オープニングⅡ～ 「ヨットってなあに？」	
12:40	体験：アクセスディンギー（2組：8グループ） ※午前の部に同じ	
14:40	（更衣・移動）	
15:00	海洋教育推進に伴うヨット贈呈式 児童代表の感想（男女各1名）	
15:30	上記贈呈式の終了	
15:35	記念撮影	
15:45	閉校～クロージング～ 「ヨットは楽しかったかな？」 児童代表によるお礼の言葉	
15:45	終了	

小6児童2クラス（76名）と引率教員4名が、午前と午後に分けて1クラスずつ交代で、海上にてアクセスディンギーの体験を楽しんだ。40名近い参加者が十分体験できるよう8艇を用意くださり、また、大勢のスタッフ（セーリングセンター職員、大学ヨット部員）らにサポートいただいた。

当该校は、セーリングセンター会場近くの学校で、一日を遠足として位置づけ、ヨット体験を午後から行うクラスについては、浜の宮ビーチで時間を過ごし待機された。参加児童の中には、海に近い場で生活しているにも関わらず、ヨットに乗り「初めて海水に触れることができた！」と感嘆の声を挙げる児童もいて、本体験会の意味を改めて実感した。

15時からは、「海洋教育推進に伴うヨット贈呈式」に全児童及び教員が参加し、日本財団笹川会長並びに仁坂知事らが見守る中、児童代表の男女2名が、ヨットを体験した感想を1人ずつ立派に語る事ができた。

和歌山市立山口小学校 実施内容

時間	内容	活動の様子
9:30	開校～オープニング 「ヨットってなあに？」	
10:00	体験①：アクセスディンギー（8艇） a. インストラクターと一緒に乗ろう！	
	b. 競争しよう！ ※インストラクターと一緒に乗って	
12:00	(昼食)	
12:40	体験②：アクセスディンギー（6艇）	
13:25	体験③：ロープワーク 「生活で使える、命を守るロープの結び方を体験しよう！」 ※自分達で操縦してみよう！ ※体験②③コースを途中交代	
14:10	閉校～クロージング 「ヨットは楽しかったかな？」 児童代表によるお礼の言葉	

10月上旬に実施予定の当該校であったが、台風の影響で延期となり、この日の実施となった。気温や水温の低下が気になる中ではあったが、5・6年児童44名及び引率教員4名が、午前は海上にてアクセスディンギーを楽しんだ。当初は20名程度ずつのプログラム入れ替えによる実施を予定していたが、8艇を準備いただき、5・6年生が同時進行で体験を行った。風も十分あり、ヨットがよく走ったため、安全面を配慮して、児童同士や児童1人での操縦を行わなかった。

午後は、更に風の吹き上げが強くなったため、内海に場を変えて、アクセスディンギー6艇を準備いただき、児童同士や児童と引率教員で操縦体験を行うとともに、半分の児童は会議室でロープワークを行った。

平成26年度「和歌山・海プロジェクト事業」
特別支援学校「海を楽しむ体験会」実施要項

1 趣 旨

和歌山県は海洋県であり、海の記憶は多くの県民のふるさと体験の一部である。しかし、現状では「海は危険」という認識も根強く、障害のある児童生徒が海と触れ合う機会も限られている。そこで、ふるさとを改めて見直す観点から、児童生徒が、ヨット体験等を通じて「海」に親しむ心を育てる。

2 主 催 和歌山県教育委員会 公益社団法人和歌山県体育協会

3 主 管 和歌山県セーリング連盟 特定非営利活動法人和歌山セーリングクラブ

4 期 日 平成26年9月～11月

5 会 場 和歌山セーリングセンター 和歌山マリーナシティ内
和歌山市毛見1514 TEL073-448-0251

6 日程及び内容（下記はモデル日程）

9:00	9:30	11:30	13:00	15:30
ヨット体験 における留 意事項説明	～「海を楽しむ体験会」～ 陸上・和歌浦湾（アクセスディ ンギー※1、モーターボート） などでの体験等		※2 午後のみの日程など調整可能	

※1 別紙「アクセスディンギーとは？」参照

※2 研修内容について、担当者（12に記載）と調整してください。

7 参加対象 特別支援学校の児童生徒（最大約20名）

※ 学校・学年の一部でも可

※ 参加する児童生徒の体調管理ができる教員の引率が必要

※ 児童生徒に合わせた体験内容について、担当者（12に記載）と個々に打ち合わせの上、決定（障害程度に応じた体験内容等）

8 参加申込み

下記様式により県教育委員会健康体育課 川畑宛て、直接「FAX」又は「メール」で申し込んでください。

申込みは、**9月12日（金）**までとします。

F A X 番号	073-441-3697
メールアドレス	kawabata_t0012@pref.wakayama.lg.jp

9 経費・携行品等

- (1) 移動用バス等を含めヨット体験会に係る経費は負担します。
- (2) 服装は、体操着・運動靴等で参加してください。
- (3) ヨット乗船時は濡れますので着替え及びバスタオル等を用意してください。
- (4) 健康保険証、飲み物等各自で用意してください。

10 事業採択等

申込み多数の場合は、健康体育課から採択・不採択を通知します。

11 その他

- (1) 安全に受講できるよう指導者の指示に従ってください。
- (2) 荒天時及び警報等発表時の対応は、各校と担当者（12に記載）との間で事前に取り決めます。

12 事業内容の詳細についての問合せ先

特定非営利活動法人和歌山セーリングクラブ

担当 中村 和哉 090-1890-9394



【日本財団助成事業】

(様式)

平成26年度「和歌山・海プロジェクト事業」
特別支援学校「海を楽しむ体験会」参加申込書

学校名	担当者職氏名	参加希望者数※	備考

※学年別人数及び引率者数を記入願います。

アクセスディンギーとは？

アクセスディンギーとは、年齢や障害の有無に関わらず、多くの人が簡単にセーリングの喜びを味わえるヨットです。

○安全性が高い

通常のディンギーはセール（帆）の下辺の横棒（ブーム）が方向転換時などに乗船者に当たる可能性があります。アクセスディンギーは、このブームが乗船者の頭より高い位置にあり、立ち上がらない限り当たる可能性がありません。

○転覆しない

ディンギー（小型ヨット）では、横流れを防ぎ、風上にも進めるようにするため、また、安全性を確保するためにセンターボードという「板」を水中に下ろします。アクセスディンギーのセンターボードは、船の大きさに比べて、重くて長いために、転覆することがありません。

○風の変化にも簡単に対応

海の風は変わりやすいものですが、海に出てから強い風が吹き出しても、シート（細いロープ）を引けば簡単にセール面積を小さくすることができます。そのため帆が受けるパワーを小さくして、安心して帆走できます。

○操作が簡単

進行方向を向いて座席に座り、船尾にある舵にロープでつながっているジョイスティックという小さな棒を、右に倒せば右に、左へ倒せば左に進みます。操作が簡単で、強い力もありません。



ジョイスティック
で舵取りは楽々

こちらのシート
に2人で乗船

「セラビリティ江の島」

<<http://sailability-enoshima.jp/>>

(2014/8/26アクセス)

「障害福祉保健研究情報システム」

<<http://www.dinf.ne.jp/index.html>>

(2014/8/26アクセス)

平成26年度「和歌山・海プロジェクト事業」 特別支援学校「海を楽しむ体験会」

1 趣旨

和歌山は海洋県であり、海の記憶は多くの県民のふるさと体験の一部である。しかし、現状では「海は危険」という認識も根強く、障害のある児童生徒が海と触れ合う機会も限られている。そこでふるさとを改めて見直す観点から、児童生徒が、ヨット体験等を通じて「海」に親しむ心を育てる。

2 主催 和歌山県教育委員会 公益社団法人和歌山県体育協会

3 主管 和歌山県セーリング連盟 特定非営利活動法人和歌山セーリングクラブ

【和歌山県立和歌山盲学校小学部】

日時 平成26年10月24日（金）10時00分～13時30分

場所 和歌山セーリングセンター 和歌山マリーナシティ内
和歌山市毛見1514 TEL 073-448-0251

参加者 小学部児童3名
引率教員4名

日程 10時00分 ヨット体験における留意事項説明
10時30分 海を楽しむ体験会（ヨット体験及びクルージング体験）
12時00分 昼食（和歌山セーリングセンターで弁当）
13時30分 和歌山セーリングセンター発

内容

初めに、和歌山セーリングクラブからヨットについての説明及び注意事項がありました。
次にヨット（アクセスディンギー）を斜路棧橋まで移動させ、海上でヨット体験を行いました。
まず、引率教員と児童がインストラクターと一緒にヨットに乗り、操縦方法を学んでから児童と引率教員と一緒にヨット体験を楽しみました。
最後に 和歌山セーリングクラブのモーターボートに乗り、和歌浦湾でのクルージングを楽しむことができました。児童は、モーターボートの操縦席等に興味津々でした。
天気にも恵まれ、爽やかな風を感じることができ、海を楽しむことができました。



ヨット体験の様子



ヨット体験の様子



児童からのお礼

【和歌山県立和歌山ろう学校教員事前研修会】

日時 平成26年10月25日（土）13時00分～14時30分

場所 和歌山セーリングセンター 和歌山マリーナシティ内
和歌山市毛見1514 Tel 073-448-0251

参加者 和歌山県立和歌山ろう学校教員 8名

内容 10月29日（水）及び11月5日（水）に実施する「海を楽しむ体験会」に参加する和歌山県立和歌山ろう学校小学部・中学部の教員を対象に事前研修会を実施しました。
研修会ではアクセスディンギーについての説明、操縦方法、注意事項等を行いました。

【和歌山県立和歌山ろう学校小学部 海を楽しむ体験会】

日時 平成26年10月29日（水）10時30分～14時00分

場所 和歌山セーリングセンター 和歌山マリーナシティ内
和歌山市毛見1514 Tel 073-448-0251

参加者 小学部児童12名

引率教員11名

日程 10時30分 ヨット体験における留意事項説明
11時00分 海を楽しむ体験会（ヨット体験）
12時00分 昼食（和歌山セーリングセンターで弁当）
12時30分 海を楽しむ体験会（ヨット体験）
13時30分 着替え終わりの挨拶等
14時10分 和歌山セーリングセンター発

内容

ヨットについての説明及び注意事項の後、海上でヨット体験を行いました。

当日は、ヨットを走らせるのに最適な風が吹いており、風を受けたヨットは、かなりスピードが出ていました。児童たちは、そのスピード感を楽しみ大変盛り上がっていました。

昼から関西広域連合の方が、和歌山セーリングセンターに訪れ、施設及びヨット体験の様子を視察されていました。



ヨット体験留意事項説明



ヨット体験の様子



関西広域連合視察

【和歌山県立和歌山ろう学校中学部】

日時 平成26年11月5日（水）9時20分～12時00分

場所 和歌山セーリングセンター 和歌山マリーナシティ内
和歌山市毛見1514 Tel 073-448-0251

参加者 中学部生徒19名

引率教員11名

日程 9時20分 ヨット体験における留意事項説明

9時45分 海を楽しむ体験会（ヨット体験）

11時30分 着替え終わりの挨拶等

12時00分 和歌山セーリングセンター発

内容

当日は、曇り空で少し肌寒かったが、生徒は「寒さは関係なし」といった感じで、みんな初めてのヨット体験にワクワク・ドキドキ、すごく元気良く楽しそうに乗っていました。体験会の運営スタッフは10月に開催された長崎がんばらば国体セーリング競技において男女ともに優勝したメンバーと和歌山大学の学生が指導しました。

体験後のクロージングで参加生徒は、ヨット体験を大変気に入った様子で「来年も参加したい！」と元気よく答えてくれました。



アクセスディンギーの説明



ヨット体験の様子



ヨット体験の様子

【和歌山県立紀北支援学校教員事前研修会】

日時 平成26年11月8日（土）12時30分～14時00分

場所 和歌山セーリングセンター 和歌山マリーナシティ内
和歌山市毛見1514 Tel 073-448-0251

参加者 和歌山県立紀北支援学校教員 3名

内容 11月12日（水）に実施する「海を楽しむ体験会」に参加する和歌山県立紀北支援学校
中学部の教員を対象に事前研修会を実施しました。

研修会ではアクセスディンギーについての説明、操縦方法、注意事項等を行いました。

【和歌山県立紀北支援学校中学部】

日時 平成26年11月12日（水）10時00分～11時30分

場所 和歌山セーリングセンター 和歌山マリーナシティ内
和歌山市毛見1514 Tel 073-448-0251

参加者 中学部生徒19名

引率教員9名

日程 10時00分 ヨット体験における留意事項説明

10時15分 海を楽しむ体験会（ヨット体験及びクルージング体験）

11時15分 着替え終わりの挨拶等

11時30分 和歌山セーリングセンター発

内容

当日は、11月にしては暖かく、気持ちいい天気でした。

生徒達は、引率教員と一緒にヨットを操縦し、海を満喫していました。また、ヨット体験後、モーターボートでクルージング体験をしました。

体験会後のクロージングでは、生徒から「また、ヨットに乗りたい」、「最高」、「来年も参加したい」、「インストラクターと一緒にヨットに乗っておしゃべりしたのが1番の思い出」と感想がありました。

また、生徒と一緒に参加した教員から、「生徒は体験を通して、海を違った角度から見ることができ、改めて海の楽しさ、美しさを感じることができました。」、「お世話になった方たちに感謝の気持ちを持つということも学ぶことができ、とても貴重な体験となりました。」と体験について感想がありました。



ヨット体験の様子



ヨット体験の様子



モーターボートでクルージング

○各学校児童生徒の感想

- ・学校にヨット部がないので作りたいぐらいヨットに興味を持ちました。
- ・来年、ヨット体験ができる時は是非参加したい。
- ・ヨットに乗った時、風って気持ちいいなと思いました。
- ・ヨットに乗っているとき、ウインドサーフィンをしていた人を見かけ、大人になったらやってみたいと思いました。
- ・来年は今回よりもたくさん乗りたい。
- ・ひとつのいい思い出が増えました。
- ・インストラクターと話ができて楽しかったです。
- ・難しかったけど楽しかったです。
- ・また乗りたいと思いました。
- ・はじめてヨットに乗ることができて楽しかったです。
- ・お話ししながら乗るととても楽しいと思いました。
- ・来年もヨットに乗れる時間があればいいなと思います。
- ・うれしかったです。
- ・大人になったらヨットに乗りたいと思います。
- ・ヨットは日常生活においてCMで見たことがあるぐらいだったが、新しいイメージを持ちました。
- ・風の向きを知ることが難しかった。
- ・高校の修学旅行で沖縄に行ったらウインドサーフィンをやりたい。
- ・海の上は、風が涼しくて、水が近くにあって進むのが楽しかった。
- ・とてもいい経験になりました。
- ・とても緊張したけど楽しかったです。
- ・またヨットにいっぱい乗りたいです
- ・初心者でも簡単に操縦できるんだなと思いました。

○全体を通しての課題

体験会を10月及び11月に実施したが、11月は気温、水温が下がってきているので、来年は9月か10月に実施する方向で検討したい。今後、更に体験内容を考え、ヨット体験以外の海で楽しめる内容も取り入れられないか検討する必要がある。

○全体のまとめ

今回、特別支援学校「海を楽しむ体験会」へ3校（4回）が参加した。各校とも、来年も参加したいとの感想があり、充実した体験内容だったように思える。

体験前は、海に対して少し、怖さを感じていたが、運営スタッフの丁寧な指導もあり、体験後は、海に対する怖さが消えていた。体験会のスタッフは、国体選手や地元和歌山大学のヨット部の学生が運営しており、充実していた。参加者は安全に安心して海の楽しさ、海の気持ち良さを体験することができた。また、体験会後に学校からいただいた児童・生徒の感想にもスタッフへの感謝の言葉が多く書かれていた。

どの学校の児童・生徒もヨットに乗るのは初めてだったが、アクセスディンギーは非常に操縦しやすく、すぐに操縦に慣れてヨットを楽しむことができた。

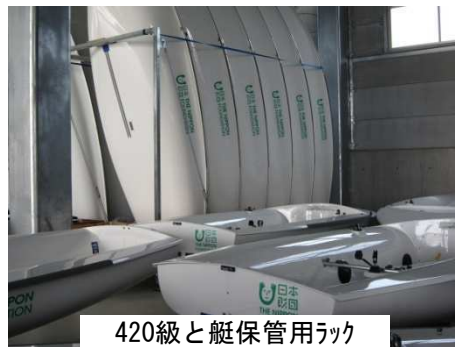
今回、参加した児童・生徒は、「海を楽しむ体験会」を通じて海を親しむ心が育ち、より一層海を大好きになってもらえたと思う。

<整備品>

①ヨット競技運営艇用浮棧橋



②ヨット及び関連備品等



＜海洋教育推進のためのヨット受領式＞

- 1 日時 平成26年10月21日（火）15:00～15:40
 2 会場 和歌山セーリングセンター

(開会前) プロジェクターによりヨット体験会の様子を上映		
15:00	① 開会	
	② セールの受領・感謝状贈呈	知事 ↔ 笹川会長
	③ 謝辞	県体育協会会長（知事）謝辞
	④ 笹川会長挨拶	公益財団法人日本財団 笹川陽平会長
	⑤ 来賓祝辞	県議会 尾崎太郎 副議長 和歌山市長 尾花正啓 様
	⑥ 来賓等紹介	和歌山県選出 国会議員代理秘書 尾崎スポーツ推進議員連盟会長 県体育協会副会長西下（教育長）他
	⑦ 祝電披露	
	⑧ 和歌山・海プロジェクト [体験会発表]	和歌山市立名草小学校6年児童代表 柏野陽音さん、川崎理沙子さん
	⑨ 海の学習（海洋教育） [取組発表]	那智勝浦町立宇久井中学校 速水盛康 校長 串本町立橋杭小学校 中道美代子 校長
	⑩ セール張り	知事、西下教育長、笹川会長
15:37	⑪ 閉会	
	記念撮影	1回目…来賓等 知事、西下教育長、笹川会長、来賓 2回目…参加児童等（晴れた時は屋外） 知事、尾花市長、西下教育長、笹川会長、 原教育長、参加児童等





『和歌山・海プロジェクト』

海洋基本計画

※ 海洋に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、海洋と人類の共生に貢献する。(海洋基本法 H19施行)

※ 第1次基本計画 (H19~)
第2次基本計画 (H25~)

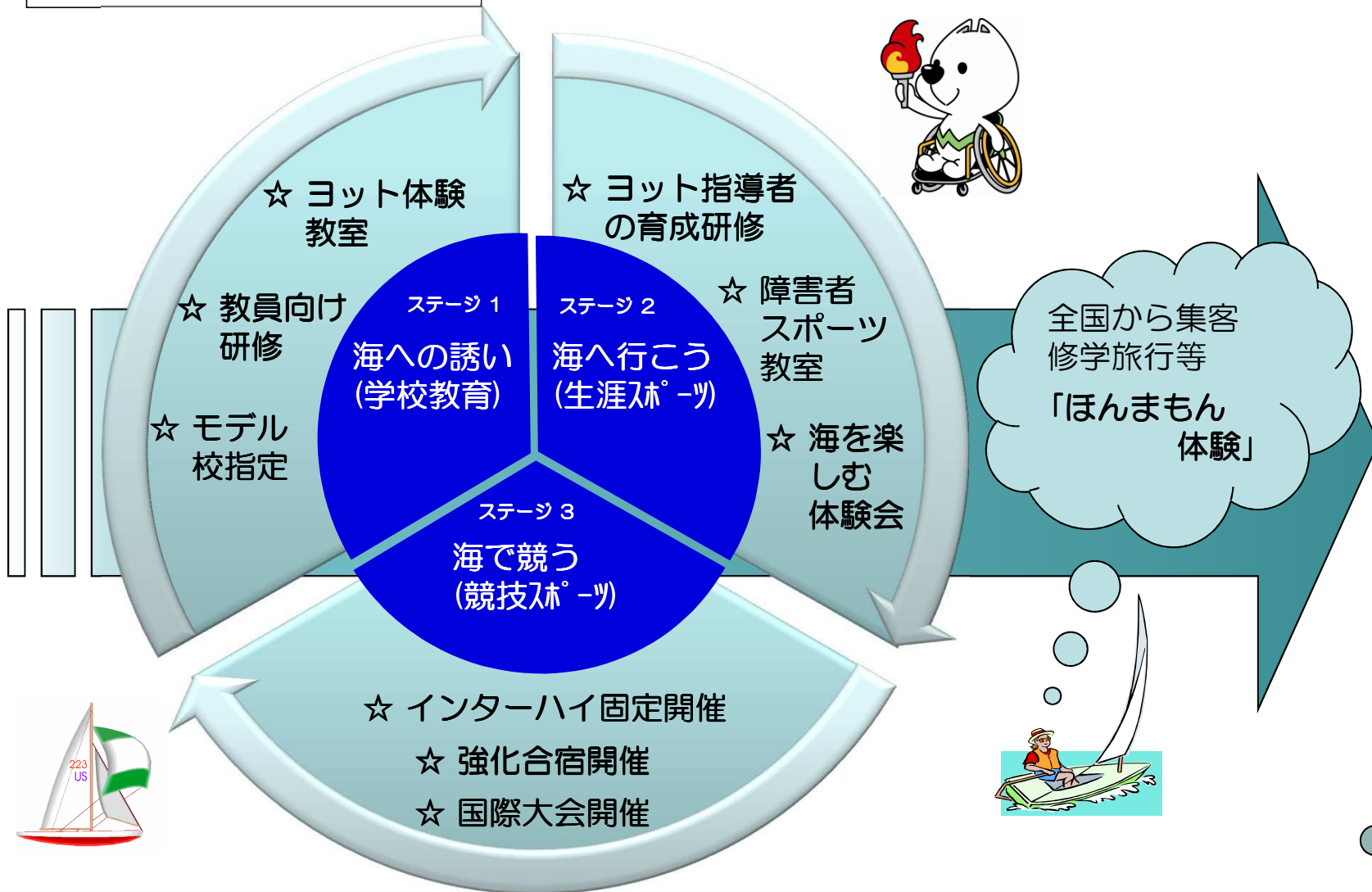
海洋に関する教育の推進

(学校教育に「海洋教育」を位置付ける)

※ 小学校、中学校及び高等学校において、海洋に関する教育を充実させる。また、それらの取組の状況を踏まえつつ、有効な方策を検討する。

現状

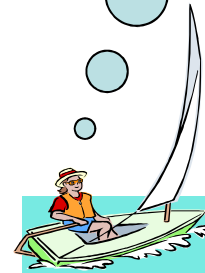
『海は危険』



『海に親しむ

・海を楽しむ・

海を大切にする』



『和歌山・海プロジェクト』

ステージ1 海への誘い（学校教育）

現状

『海は危険』

H20～H29
和歌山県長期総合計画
子どもの自立を育む
学校教育の推進
本県の豊かな自然・歴史・文化を教育資源としながら、ふるさと学習を充実します。

新
H26～H29 第一期
教育振興基本計画
いそぐと教育の推進
…海や山などの豊かな自然等の様々な学習資源を活用した学習活動を行い、…

新
H26 学校教育指導の方針と重点
いそぐと教育の推進
海や山などの豊かな自然にふれ、体験することで、学び喜びや充実感を高める学習に努める。

ヨット体験（学校行事）

対象：小・中・特別支援学校の児童生徒（学校への出前授業）
内容：座学（VTR）、プール、ランドヨット等の活用
指導者：指導者1名、アシスタント3名（県セーリング連盟・WSCから派遣）
参加人数：クラス単位（40名程度）
実施回数：2回程度（2時間/回）

教員向け研修

対象：県内小・中・高・特別支援学校の教員
内容：基本的なヨット操作等
指導者：指導者3名、アシスタント5名（県セーリング連盟・WSCから派遣）
参加人数：20名程度
実施回数：2回程度 [夏休み等（半日～1日/回）]

モデル校指定

対象：明和中、浜宮小（案）
内容：3種目程度で複数コース設定（60～90分でローテーション）
指導者：指導者3名、アシスタント6名（県セーリング連盟・WSCから派遣）
参加人数：クラス単位（40名程度）
実施回数：2回程度

『海に親しむ・海を楽しむ・海を大切にする』

『和歌山・海プロジェクト』

ステージ2 海へ行こう（生涯スポーツ）

現状

『海は危険』

ヨット指導者の育成研修

対象：一般及び経験者（特別支援学校教員、介護施設の職員等を含む）

内容：障害者指導可能な指導員の養成

指導者：指導者1名、アシスタント3名（県セーリング連盟・WSCから派遣）

参加人数：20名程度

実施回数：1回程度（半日～1日）

障害者スポーツ教室 = 県障害者スポーツ協会と連携

対象：中学生以上

内容：セーリング体験（乗船可能な艇）

指導者：指導者3名、アシスタント6名（県セーリング連盟・WSCから派遣）

参加人数：10名程度

実施回数：1回程度（半日～1日）

海を楽しむ体験会

対象：小学生～高校生（障害者を含む若い世代）

内容：セーリング体験・ロープワーク・小物作り他

指導者：指導者3名、アシスタント5名（県セーリング連盟・WSCから派遣）

参加人数：20名程度

実施回数：2回程度（半日～1日）

『海に親しむ・海を楽しむ・
海を大切にする』

『和歌山・海プロジェクト』

ステージ3 海で競う（競技スポーツ）

現状

『海は危険』

インターハイ固定開催（平成27年以降）

対象：高校生アスリート

内容：高校日本一を決める大会

H27～H29…420級・FJ級 H30～：420級・レーザーラジアル級

参加人数：選手・監督 450名 役員 150名

実施時期：8月中旬

強化合宿開催

対象：ナショナルチームメンバー（ジュニア・ユース・シニア）

内容：国際大会でのメダル獲得に向けたトレーニング

指導者：ナショナルコーチ等

実施回数：日本セーリング連盟の強化プランに基づく

国際大会誘致・開催

対象：世界のトップアスリート

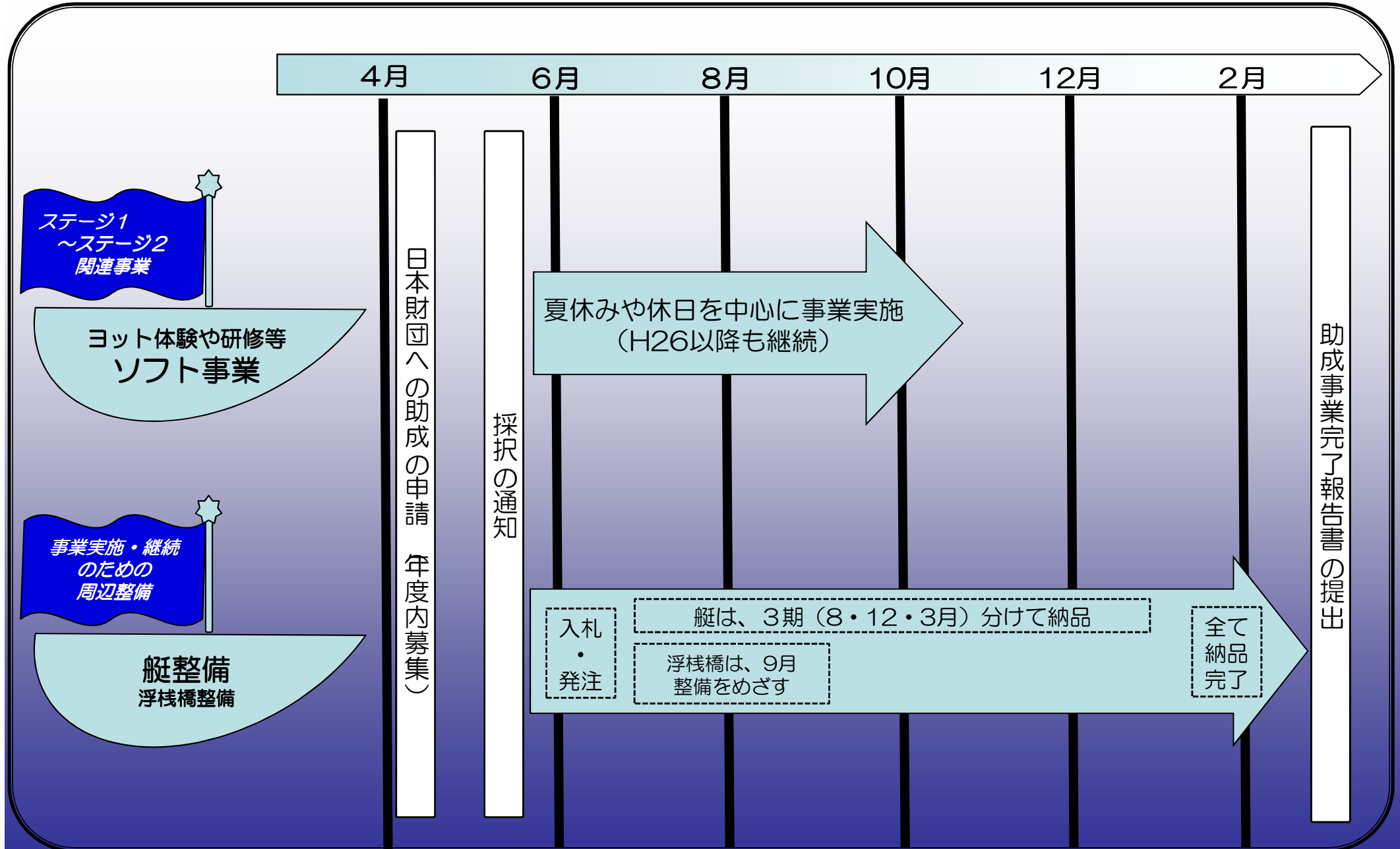
内容：世界一を決める大会

目標：大会誘致と日本人によるメダル獲得

『海に親しむ・海を楽しむ・
海を大切にする』

『和歌山・海プロジェクト』

平成26年度 事業スケジュール



『和歌山・海プロジェクト』

普及事業 5ヶ年計画（案）

『海に親しむ』教育の実践

※ 人数：累計（延べ人数）

